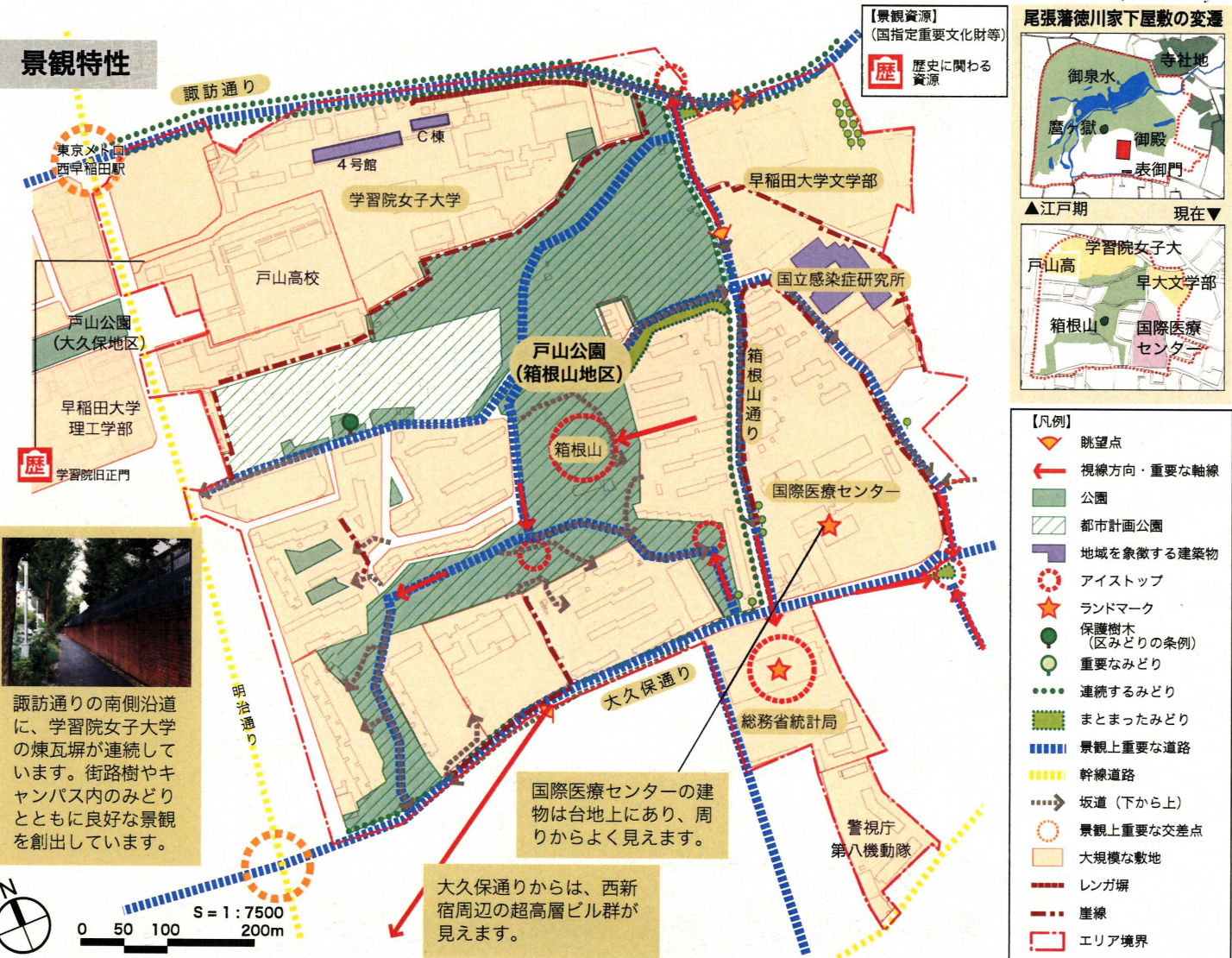
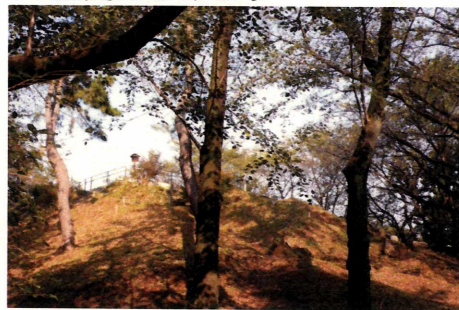


4-1 戸山公園箱根山エリア

戸山公園は、尾張藩徳川家下屋敷で、かつては戸山山荘と呼ばれていました。その中心には区内で最も標高の高い「箱根山（44.6m）」があります。その周囲には、早稲田大学や学習院女子大学、都営住宅、国立国際医療センターなどの大規模施設群があります。

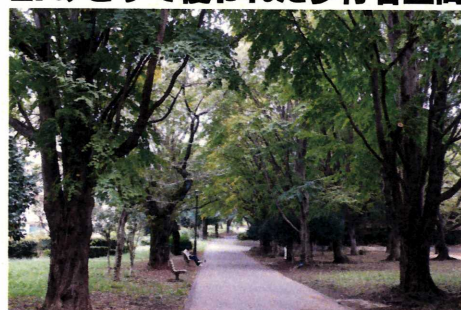


1. 歴史あるみどり



尾張藩徳川家下屋敷の庭園であったこのエリアには、窪地をいかした、ため池がありました。庭園の一部であった「箱根山」は、区内で最も標高が高く、その頂上は高く茂った公園の木々に囲まれています。

2. みどりで覆われた歩行者空間



周囲で生活する人々にとって戸山公園は、憩いの場であるとともに、生活動線としても使われています。そのため、その周辺においても公園と一体となった快適な歩行者空間の創出が必要です。

3. 大規模敷地群



エリア内には、大学や都営住宅、医療施設等が多数存在しています。それぞれの持つまとまったみどりを連続させ、快適で楽しめる歩行者空間の創出が必要です。

景観形成の目標

戸山公園と大規模施設群を中心としたみどり豊かなまちなみへ

公共用地とまち、公園が一体となり、多様な都市機能を有するみどりあふれる「都市の森」を形成する。

景観形成の目標

1. 戸山公園周辺ではまとまったみどりを保全、創出する

景観形成の考え方

旧尾張藩邸下屋敷であった戸山公園一帯の歴史や地形をいかし、公園と周辺が一体となってまとまったみどりを創出する。

具体的な方策

- 戸山公園箱根山周辺のみどりを保全する
- 大規模敷地の計画では、まとまった緑化を行う
- 中・小規模敷地の計画では、道路沿いで積極的に緑化を行う

2. 散策したくなる魅力的な歩行者空間をつくる

景観形成の考え方

エリアを南北に貫く箱根山通りでは魅力的な坂道景観をつくり、また、戸山公園周辺の道路では、歩く人に快適な魅力ある景観をつくる。

具体的な方策

- 外壁の素材や色彩は、周囲の落ち着いた雰囲気と調和したものとする
- 擁壁の上部の塀・さくは高さを抑える
- 擁壁は周囲と調和し、圧迫感を与えないものとなるよう工夫する（壁面緑化を行う、自然素材を用いる、分節化を図る など）
- 道路沿いには空地をとり、植栽帯を設ける
- 戸山公園への動線となっている道路沿いでは、歩道と連続した歩行者空間をつくり緑化を行う

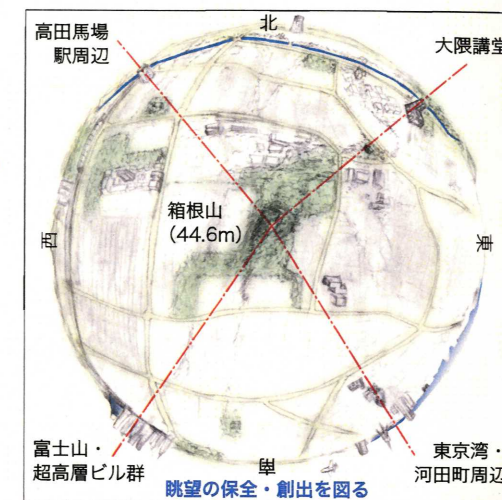
3. まちに溶け込む大規模施設群（学校や医療・福祉機関等）の景観をつくる

景観形成の考え方

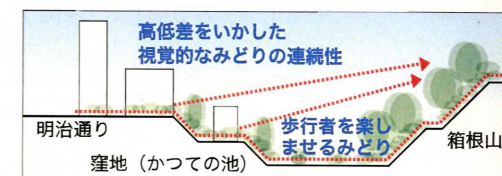
エリア内に多数存在する大規模施設（大学や医療・福祉機関、等）の敷地境界を開放的なものにし、周囲を歩く人が楽しめるような景観をつくる。

具体的な方策

- 色彩や素材は、周囲と調和した落ち着いたものとする
- 道路沿いには十分な広さの空地を設け、樹木や草花などにより、歩行者にとって明るく潤いのある景観をつくる
- 屋上緑化や壁面緑化を積極的に行う



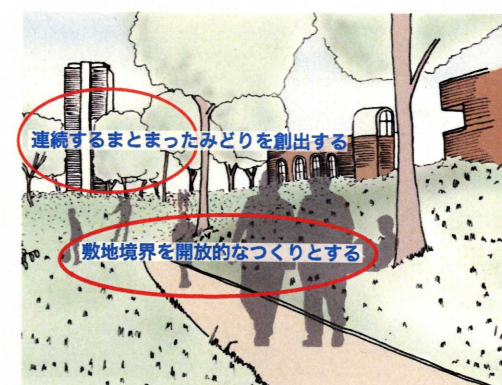
箱根山を中心とした周辺地域の景観資源



地形をいかした一体感のあるみどり



大規模敷地の周辺に生じる圧迫感の緩和



まちに溶け込む大規模敷地群

4-2 夏目坂エリア

夏目漱石の父親が、屋敷前の坂に自分の名前を付けたことが、坂道の名前の由来となっています。北側の斜面地には寺社や住宅が建ち並び落ち着いたまちなみがあり、エリアの中心を通る大久保通りや団子坂沿いには、小規模な店舗の連続により賑わいあふれるまちなみとなっています。



夏目坂からは、東側には早稲田大学喜久井町キャンパスの斜面地のみどり、西側には寺院の境内の樹木が目に入ります。

不整形な道路基盤により、数多くのアイストップが生まれています。

- 【凡例】
- ▲ 眺望点
 - 視線方向・重要な軸線
 - ⚡ 神社
 - ⛪ 寺
 - 🌳 公園
 - 🏢 地域を象徴する建築物
 - ⊙ アイストップ
 - ★ ランドマーク
 - 🌳 保護樹木
 - 🌳 重要なみどり
 - 🌳 まとまったみどり
 - 🛣️ 景観上重要な道路
 - 🛣️ 幹線道路
 - 🛣️ 坂道(下から上)
 - ⚡ 景観上重要な交差点
 - ⚡ 不整形な交差点
 - 🏢 大規模な敷地
 - 🔴 崖線
 - 🔴 エリア境界
 - 🏠 都選定歴史的建造物



景観特性

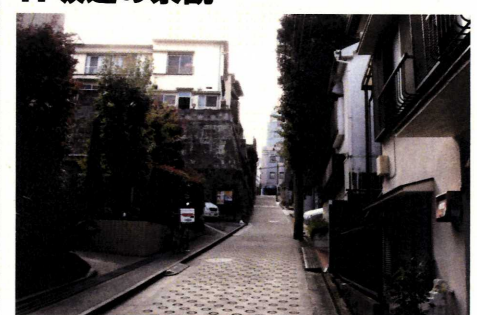
下戸塚からは北側に向かって見晴らしの良い眺めが得られます。

大久保通り沿いには間口の狭い店舗が連なっています。

交差点のみどりがアイストップになっています。

団子坂からは西新宿周辺の超高層ビル群が見えます。

1. 坂道の景観



エリアの東側の斜面地上を夏目坂が南北に走り、南側で大久保通りと団子坂に突き当たります。夏目坂沿いには寺社が多く、また、下戸塚坂の上からの眺めは、遠くまで見通すことができ、地形を感じる景観となっています。

2. 住宅地の景観



エリアの北側と南側には住宅地があります。南側の住宅地は台地上にあり、比較的にゆとりのある良好な住宅地です。北側の住宅地は斜面地上にあり、生活感のあるみどりあふれる路地などがあります。また、アイストップとなる場所が多く存在しています。

3. 商店街の景観



大久保通りは北側の斜面地と南側の台地のちょうど狭間に位置しています。周辺居住者の日常生活を支える店舗が建ち並び、賑わいあふれる景観となっています。

景観形成の目標

坂道や寺社の雰囲気をかきた落ち着いたまちなみへ

坂道やまとまったみどりなどの景観資源をかきた、住宅地の落ち着いた景観をつくる。

景観形成の方針

1. 由緒ある坂道をいかした景観をつくる

景観形成の考え方
夏目坂や団子坂等の由緒ある坂道沿いでは、坂道の歴史に配慮した落ち着いた景観をつくる。

- 具体的な方策**
- 色彩や素材は、周囲と調和した落ち着いたものとする
 - 擁壁の上部の垣・さくは高さを抑える
 - 擁壁は周囲と調和し、圧迫感を与えないものとなるよう工夫する(壁面緑化を行う、自然素材を用いる、分節化を図る、など)
 - 道路沿いには空地をとり、植栽帯を設ける
 - アイストップとなる場所では、積極的に緑化を行う

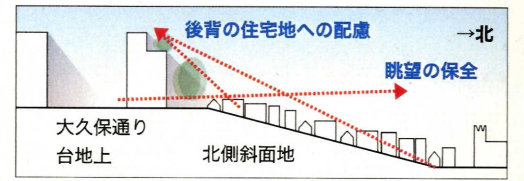


北斜面の坂道景観

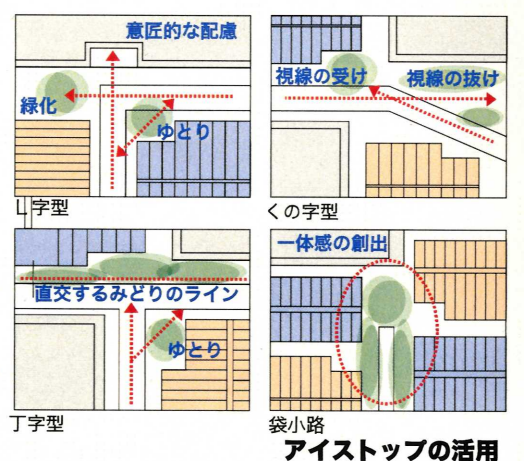
2. 落ち着いた住宅地と調和した景観をつくる

景観形成の考え方
北側に広がる斜面住宅地や南側の台地上の住宅地の落ち着いたまちなみと調和した景観をつくる。

- 具体的な方策**
- 色彩や素材は、周囲と調和した落ち着いたものとする
 - 壁面の分節化を図り、長大な壁とならないように配慮する



北側斜面住宅地への配慮



アイストップの活用

3. 賑わいあふれる幹線道路沿道景観をつくる

景観形成の考え方
大久保通り沿いでは、低層部の賑わいを創出し快適な歩行者空間をつくる。また、周辺住宅地の住環境へも配慮する。

- 具体的な方策**
- 壁面の位置を揃え、周囲と調和を図る
 - 間口は現在の規模を継承するか、もしくは、分節化を図る
 - 低層部の賑わいを感じられるよう、開放的な意匠とする
 - 夜間景観に配慮した照明計画とする
 - 住宅地とのボリュームギャップを解消する(住宅地側は階数を減らし、屋上緑化をするなど)
 - 住宅地側には空地をとり、積極的に緑化する



賑わいあふれる歩行者空間

